

思いつくままに

―千里第二小学校在職十三年―こやま けんいち

◇ 転勤のころ(1)

私は大正十五年の、吹田生れの吹田育ち。大正、昭和、平成の三代にわたり吹田でお世話になって、只今八十四歳になります。

眼底出血以来三度の手術で視力衰え、それに加えて老人性難聴、昨年、癌と言われて胃を三分の二摘出。股関節骨折全廃、心臓にペースメーカーを入れ、障害者一級の身で辛うじて生きています。

千里第二小学校には、昭和二十八年四月に、吹田第二小学校より転勤して十三年間お世話になりました。転勤後最初に担任したのが、この原稿の依頼を受けた第二十七回卒業の高見信雄さんたちが在籍の四年月組。当時は分校(第二校舎とも呼んでいました)になっていた、元私立桜蘭女学校(廃校)校舎二階で一年間過ごしました。

分校の運動場からは、東隣にグレース幼稚園。南、丘の上には関西大学の白い建物が見えていました。西

側は阪急千里山線を隔てて千里寺(武田恒子さんを担任したことがあります)。北は平屋校舎一棟があつて、当時は二年生が四クラス勉強していました。

学校行事がある度に、佐井寺に通じる山裾の道を、児童たちと十分ほど歩いて本校に行き、それぞれの行事に参加したことを思い出します。

◇ 転勤のころ(2)

分校生活一年が過ぎて、新五年生は本校へ。道路に沿って二階建て木造校舎が二棟。細長く狭い運動場の東側は、小高い丘。(この辺りから東一帯は、やがて新校舎や運動場となり、更に延びて、松ヶ丘その他の住宅地になりました)。校舎正面に玄関。校門を這入ると右が保健室で壁を隔てて廊下側に音楽準備室。玄関の左側が職員室。教師たちは、普段は玄関を使わず、校門から直ぐ左にとつて職員室横の出入り口を利用しました。左側が二階へ昇る階段で、その下が職員便所になっていました。

この出入り口の右側植えこみに大きな楠の木が一本、その向かいの校務員室が中村さん一家の住居になっていました。(中村さんご夫妻については後述)

当時、私たち五年生の学年編成は五クラス。卒業記念アルバムに写っている担任の先生は、西田慶二（雪組担任）・藤木知顕（星組担任）・小山健一（月組担任）・東谷陸子（花組担任）・明原文治（松組担任・学年主任）の五人と音楽担当の木島憲二先生たちでした。

頂戴した「会誌十二号」をひも翻げば、当時を懐古する記述が数多く記載されていますが、私にとつても忘れ得ぬ思い出がいっぱいあります。

春、校舎とフェンスとの間に植えられてあった桜の木から、花びらが零れ、開け放った教室の西側の窓から、児童たちの机上に舞い落ちる風情が忘れられません。

◇ 当時の先生たち

昭和二十八年。吹田市教委は、教育行政刷新のため、戦後初めての市内教職員大異動を実施。転勤した千里第二小学校では、私を呼び寄せてくださった有川清夫校長を始め、忘れられない大勢の先生方との出会いがありました。

中川謹治教頭は、吹田第二小学校からの同時異動。私の小学校時代の間接的な恩師の一人で、千里ニュー

タウンが出来ると同時に佐竹台小学校初代校長に栄転されましたが、ストーブを囲んでよく昔話をしました。ご遺族とは、今も文通を続けています。

分校主任は太田得至先生で、後日、古江台小学校の初代校長。お宅は茨木市太田にあつて、お寺の住職でもありました。一度、分校時代に先生がた数人とお邪魔したことがありましたが、道すがら、独活の栽培小屋を覗き見した記憶が今も強く残っています。

明原文治先生は私たちの学年主任で、随分とお世話になりました。美しい文字を書かれる温厚な人柄で、家は現在上山手町の旧家。当時先生の教え子たちの一人宮地繁さんは、岸部小学校在職時の同僚で、OB会で会う度に千二小時代を思い出し、二人で当時を偲んでいます。

近くに西野周一先生の家がありました。先生は師範学校の先輩で画家。先生の描かれた作品が、校舎内の壁面に未だ残っているかもしれません。何故か気が合つて、「淡路」や「天神橋筋」へ出かけて安酒を飲みながら話しました。

西田慶二先生は、私にとっては兄貴のような存在。当時は未だ車に乗る先生が少なかった時代で、二人が

スクーターで通勤していた関係もあつて気が合い、車の性能アップについての情報交換（と言っても殆ど私が教えて貰っていました）をしたり、専門店を買った部品の取替えをしたり、色々と面倒を見て貰いました。

東谷陸子先生は花組担任で、私の隣の教室のおんな先生。会誌にもありますが、作文教育に打ち込んでおられた先生でした。当時は国分一太郎さん主宰の作文教育が全国的に盛んな時代で、「山びこ学校」や「手をつなぐ子ら」などの教育実践。後半は、壺井栄さんの「二十四の瞳」などと、教育現場を描いた映画が数多く上映され、教師と子どもたちの在り方や繋がりを問われた時代でもありました。

藤木知顕先生は、前述の、実践に深く踏み込んだ信州教育を身に付けて長野から大阪に戻ってきた師範学校の後輩で、教育の原点を見据えた指導の在り方を教えて戴いた、忘れられない先生の一人でした。

◇ 昭和三十年ごろ

戦後の十年が過ぎて、世界中が激しく変動する中で、この十年は、敗戦で荒廃した日本経済が復興充実する時代でした。個人的にも、教職四十年の中で、心身と

もに、最高に活動できた時代でありました。

NHKのテレビ放送が開始されて間もなく、一台のテレビに大勢が集まって東京オリンピックを観戦したのもこの頃。激しい学生運動がありました。勤務評定を巡って教育界が激動、私たち教師も、児童も保護者も、日本中の学校がその渦中に身を晒した時代でありました。

校舎にも大きな変化が見られました。戦前、北摂の住宅地として開発された千里山一帯は、戦後三十年を経過して次第にその規模を拡大、児童数も次第に増えて、学校や教室数の不足する事態が生じ、それに加えて、本校の講堂がシロアリの被害に遭い、老朽校舎と共に増改築の必要に迫られていました。

地域と学校の強力な要請によって、一九五七年（昭和三十三年）、前述の旧校舎東側の丘に、鉄筋三階建校舎と新講堂が完成。翌年には校舎東側に新しい運動場が出来て、現在の学校の形態がほぼ完成。すし詰め学級や狭い運動場で不自由な学校生活を送るなど、苦勞された卒業生にとつても、明るいニュースとして伝わったに違いありません。

担任した卒業生「六年月組」の男子有志が、卒業記

念に遺しておきたいと、旧運動場の空地に、始業前や放課後を利用してドッジボールのコートを造つてくれました。しかし、苦勞した甲斐もなく、後輩たちにも使われないまま、新校舎造成に這入ったブルドーザーによって埋没してしまいました。

校舎が完成したとき、私は、コート跡地に立つて、ながい感慨に耽っていました。

◇ 校務員の中村さん

学校内外で變動の激しい最中、校務員の中村さん夫妻が退職されることになりました。教師からも児童たちからも、家族同様に慕われていた人柄を惜しんで、市役所に再三陳情し延期して貰っていた上でのことだけに、これ以上の無理は聞いて貰えない事情がありました。

そこで、児童が中心となって、中村さんの送別会をする事になり、校舎の北側にあった新築間もない体育館（開校当時に建てられた木造の講堂が白蟻の被害を受け、鉄筋の体育館に改築）で送別会をしました。夫々が勞いの言葉で謝意を述べ、最後に、私が台本を書き、音楽専科であった木島先生が作曲、演劇部児童

一九六四年三月卒業 明原 堀野 松本 山野各先生
六学級組担任 児童数四八名
出水久太郎校長

一九六六年三月卒業 小西 堀野 齊藤 松本 前田各先生
六学級月組担任 児童数四三名
福井 勇校長

真木 五石 中川 谷口 谷各先生
これらの記録や本校の歴史などについては、学校の沿革史に詳細且つ正確に記載されていますので省略しますが、在職中の忘れられぬ思い出のひとつつたつを述べてみます。

◇ 兔狩り

昭和三十年前半は、校区の佐井寺地区や隣接する山田地区には、昔からの田園風景がそのまま残っていました。殊に山田は竹林に囲まれ、此処から掘り出される良質の筍は、街の多くの人々に知られ、親しまれて来ました。

当時、学校では、冬季体力づくりの一環として、耐寒遠足や兔狩りなどの行事が組まれていました。兔狩りは、高学年の児童を対象にして毎年山田地区の山林で実施されました。

による『校舎と共に三十年』というシュプレヒコールを上演、お二人に見て貰いました。

この送別会が、開設間もないNHK大阪テレビ局の知るところとなり、三十分番組として放映されることになりました。卒業生から代表一名・学校から小山・司会者たちが中村さん夫妻を囲んで思い出話などを語り合いました。

テレビ局が記念にと写してくれた、今では色褪せた写真が三枚、私のアルバムに残っています。テレビに出して貰って、良い死に土産ができた、と、日頃は無口なオジサンが喜んでくれた、その顔とその声を思い出します。

◇ 四冊の卒業記念アルバム

在職十三年間に四度、卒業生を送り出しました。それぞれに、思い出が詰まった卒業記念アルバムが四冊、手元に残っています。

一九五六年三月卒業 五学級月組担任 児童数四八名
有川清夫校長
西田 藤木 東谷 明原各先生
一九五九年三月卒業 五学級雪組担任 児童数五四名
有川清夫校長

六年生の各クラスから選ばれた児童たちの数名が、男性の先生と一緒にひと足先に網元の家に行つて、捕獲網を借り受け、網元の方の指示に従つて山に登り、適当な場所（尾根から少し降ったところ）に網を張り巡らし、待ち構えます。追い手の児童たちはそれぞれに棒切れなどを持ちホイイ、ホイイと地面を叩きながら兔を追って頂上を目指します。野兔が居れば驚いて逃げ出し、斜面を駆け上がり、駆け下りて転び、網にくるまって捕獲されるといふ筋書きです。獲れた年は手足を縛り、男子児童たちが担いで学校へ持ち帰りました。

その後、兔がどうなるのかが気になる女の子が、帰り道で、「先生、その兔どうするんですか？」と訊かれ、冗談で、「明日の給食に入れて食べる・・・」と答えると、「可哀そう・・・」と、女の子数人が泣き出したことがあります。

皆さんの記憶の底の何処かに、こんな思い出が未だ残っているかも知れませんね。

◇ 運動会

旧校舎の運動場は、南北に長く東西には狭かったの

で、此処での運動会はトラックや観覧席の設定にはひと工夫必要としました。

昭和三十年秋のこと。六年月組の児童たちは、男女とも足の速い選手が多かったので、秋季運動会の学年対抗リレーは、男女とも優勝頂きと期待していました。しかし、女子選手のT・A子さんは、先頭を切って走っていましたが、スピードが出すぎて第一コーナ―を曲がり切れず滑って転倒し、優勝の夢は叶いませんでしたが、如何にも走れそうな、女鹿のような綺麗な脚が印象に残っています。

男子選手として活躍してくれたK・H君が、卒業式を間近に控え、中庭で遊んでいて脚の骨を折りました。病院と整骨院の選択に迷った挙句、京都・西院の整骨院で通院治療しましたが、運良く、後遺症もなく完治。卒業後、進学先の中でも選手をしていると訊いて、大変嬉しかったという記憶があります。

この学級の人たちとは縁が深く、卒業後もその弟妹四人を担任し、折に触れて、その後の消息など尋ねたり、兄弟姉妹の共通点などを思い浮かべながら過ぎた日を懐かしんでいました。

本校卒業生であった音楽専科の故木島憲二先生は、どんな感想をお持ちだったのか、今は亡くなつて訊ねるすべもありません。

◇ 仲よしこよし（一年生担任の頃）

高学年を教えるのも良いが、若いうちに一年生の担任を経験するのも将来のためには役立つからと、有川校長に勧められて、「一年雪組」を一年間担任しました。入学式で初めて出会ったとき、みんなは小さくて、可愛くて、無理すると毀れそうな印象を受けました。早速、「学級の歌」を決めて、教室のオルガンを教えました。

仲よし小道

三苦やすし・詩
河村光陽 曲

仲よし小よしはどこ道 今日も学校へみよちゃん
とランドセル背負って元気よく お手てをつないで通う道
(以下 省略)

低学年だから、学校が楽しければそれでよい・・・との思いから、学習とは別に、よくみんな遊びました。

◇ 創立三十周年

昭和三十三年夏、鉄筋三階建校舎とその東に新しい運動場が出来上がりましたが、地盤が粘土質であったため、当初は排水に苦労しました。

完成した年の秋、運動会の前に雨が降って、運動場のあちこちに水溜まりが出来ました。前日準備をする際、教室のバケツや雑巾を持ち出して、先生方みんなが、雑巾で泥水を拭き取る作業をした姿が、今も鮮明に残っています。

翌三十四年十一月十五日。新築間もない体育館で創立三十周年の記念式典が行われました。記念行事の一つとして新しい校歌が制定され、当日、式場でその発表が行われました。

当時は、何処の学校でも、戦前の校歌に代わる新しい校歌が制定されつつありました。私は、吹田第二小学校を昭和十四年に卒業しましたが、お世話になった母校に六年間ご恩返しのため勤め上げ、本校に転勤した後の同じ頃に、新しい校歌が制定されたように聞いています。歌詞の文言その他に問題があったのでしょうか、古い校歌を歌い慣れた者にとっては、新しい校歌にはなかなか馴染めませんでした。同じ世代の、

それぞれの家から捕獲網や虫籠を持ちより、運動場東側にあつた土手の小径を通つて丘に登り、下り、草花を摘み、虫を捕り、佐井寺の池で小鮒を掬い・・・その年の冬、珍しく運動場に前夜に降つた雪が積もりました。窓の外の雪を見て落ち着かない児童たちに、私は思い切つて授業を打ち切り、半日雪遊びをさせました。滑つたり、転んだり、雪合戦をしたり・・・仲間たちと作つた雪だるまが、校庭のあちこちに並びました。男の子も女の子も、あの活き活きとした笑顔が忘れられません。思い切り遊んだ後、給食を食べて帰りました。

一年生が終わる年度末に、ご両親と共に綴つた記念文集の名が「雪だるま」。誰かさんの戸棚の隅に、楽しかった思い出が一つ二つ、未だに残っているかもしれません。良い経験をさせて戴きました。

◇ 新しい街（千里山団地・千里ニュータウン）

昭和三十年中頃から、千里山駅東の丘陵地帯が開発されて千里山団地が誕生。児童数が急激に増えました。それまでの千二地区の通学区域は、主として田園地帯の佐井寺地区と新京阪電鉄が開発した新興住宅地

でしたが、それらの通学児童たちに加え、新たに団地からの児童が加わるという新しい環境が出来上がりました。

この時期、遠い佐井寺からの通学生は徒歩でしたが、花壇町・豊津・吹田、遠くは大阪市内から通学する一部児童は、吹田では唯一電車通学をしていました。月末になると、求めに応じて、よく定期券購入の為の通学証明書を発行したものでした。

千里団地の他に、池田市の五月山団地や、泉北にも団地が出来るなど、ベッド・タウンを抱える大阪府下衛星各都市は、新設校の設立に迫られ、環境の変化に伴い「団地族」という言葉が流行したのもこの時代でした。

更に、三十年後半、北摂一帯に泉北ニュータウンと並ぶ千里ニュータウンが造成されることになり、大阪府は勿論、吹田市や豊中市など、関係する地区はその対策に迫られ大童の時代が訪れました。

丘陵地帯にブルドーザーが入り、山を崩し、谷を埋め、出来上がった住宅地には、全て「台」という地名がつけられ、地名と同じ校名の小中学校が設立されました。佐竹・高野・津雲・青山・藤白・古江台小学校

及び高野・古江・青山台中学校など。

通勤の足として、終点千里山であった阪急千里山線は延長され、南千里・山田を経て北千里へと延長。山

田駅でモノレールと接続するに至りました。

昭和四十一年、新しい街に呼ばれて、私は、十三年間通い慣れた、思い出多い千里第二小学校から、新設間もない青山台所学校へと転任しました。

(終)



昭和三十年六月 修学旅行 伊勢神宮での写真